

コラム

派遣研究員レポート

名前	派遣先	派遣期間
鍋田 尚子	漢陽大学校 東アジア文化研究所	2017年11月22日 ~ 2017年12月 5日
兪 鳴奇	中山大学 中国非物質文化遺産研究中心	2018年 1月10日 ~ 2018年 1月30日

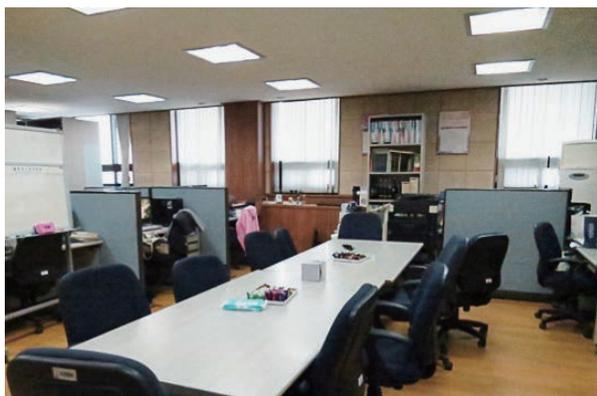
## 韓国での竈神の調査をめぐって

鍋田 尚子

(歴史民俗資料学研究科 博士後期課程)



「韓国の竈神信仰 —ベトナム・中国・沖縄との比較研究—」をテーマに調査を行うため、2017年11月22日から12月5日までの2週間、非文字資料研究センターの派遣研究員として韓国ソウルの漢陽大学校東アジア文化研究所にお世話になった。私はこれまでベトナム



漢陽大学校東アジア文化研究所

の竈神信仰を中心にベトナム国内や中国・沖縄などを調査してきた。中国の影響を受けた竈神がそれぞれの国や地域でどのように変容し信仰されてきたか、実態はどうであるか、それらの背景を含めて研究するためである。今回は、韓国の竈神にどのような共通性や独自性が見られるかを調査するためであった。

目的は一応持っていたが、私は韓国語が読めず話すこともできない。韓国の文化も民間信仰もよく分からない。調査や資料収集などできるだろうか、どのように計画を進めればいいのか、事前準備も手探り状態で出発前までいろいろと不安があった。そんななか、出発前から受け入れ先の東アジア文化研究所の李京僖先生やお世話役の任仁宰さんが連絡をくれていた。そのことは本当に心強かった。ソウル到着後は任仁宰さんとホテル近くの駅で待ち合わせをし、ホテルと漢陽大学校を案内して



漢陽大学校東アジア文化研究所の方々

くれた。大学では研究室で私が使えるパソコンを用意してくれ、自由に使える環境を作ってくれた。そのおかげで私は最後まで時間ができると大学の研究室に行き、資料整理をしたり最後の発表用のパワーポイント作成などをしたりして過ごすことができた。研究室に人がいることはほとんどなかったけれど、居心地がいい研究室だった。

資料収集においては多くの先生や研究者の方々に助けていただいた。今回の韓国での調査の成果はそのおかげである。ソウルでは中央大学の任章赫先生にお会いし、韓国語が読



中央大学の任章赫先生



めない私のため、代わりに幾つかの資料を収集し、その上大事な部分をマーカーで印までつけてくださった。その1行を読むだけでも私にはかなりの時間を要したが、時間はかかっても新たに知る韓国の竈神はとても興味深く面白かった。お会いした時に先生は資料の内容も説明してくれた。また論文の著者に電話で尋ねてくれたりもした。何より竈神に関する先生の考えや幼い頃の記憶なども話してくださったことは、私のなかで韓国の竈神だけでなくベトナムの竈神を考えるととても重要なものとなった。国立民俗博物館の鄭然鶴先生は、韓国の基本的な信仰をよく分かっていた私のため、韓国の家庭信仰について写真や図を描いて丁寧に説明してくださった。最後は先生が収集した写真などを私に提供し、使用の許可もくださった。韓国の家庭に入り台所の写真を撮るなど難しい私にとっては貴重な資料であり、先生の寛大さに感謝である。

聞き取り調査は、ソウルでは仏教美術が専門の池美玲さんが同行してくれた。彼女の祖母が竈神を祀っていたため話を聞きたいとお願いしたのだったが、美玲さんはソウル市内で調査のできそうな村を調べてくれていた。聞き取りができるか分からないけど行ってみようということで、2人でアンコル村に向かった。幸運にも村の巫覡、金虎女さんに出会い、これまでの生い立ちを伺い、竈神を祀る様子を見せてもらうことができた。美玲さんとは初対面であったが年齢が近いこともあり親しくなり、今回のソウルでの大切な出会いになった。

ソウル以外には済州島でも調査を行った。歴史民俗資



アンコル村の巫覡 金虎女さん

料学研究科の先輩方の紹介のおかげで済州島の人々、シンパン、済州島研究者の高先生にもお会いし話を聞くことができた。それだけでなく、車の手配から済州島滞在の予定まで組んでくれたことは本当に感謝である。

今回の訪問で韓国竈神信仰の実態の一端を知り、ベトナムの竈神について改めて考える機会を得たことは大きな成果である。そして何より感動したのは出会った全ての方の親切さである。漢陽大学の東アジア文化研究所、ソウルや済州島で調査の協力をしてくださった先生方や皆さま、歴民の先輩方、忙しいなか丁寧に時間を取って関わってくださったことは本当にありがたく感謝の気持ちでいっぱいです。最後に派遣研究員という機会をいただき、お世話になった非文字資料研究センターの皆さまに心よりお礼申し上げます。

## 中国沿岸漁民の海洋知識と利用に関する調査 中山大学非物質文化遺産研究センターへの派遣調査 及び滞在記

俞 鳴奇

(歴史民俗資料学研究科 博士後期課程)



2018年1月10日から30日まで、私は非文字資料研究センターの派遣研究員として、中国・広州にある中山大学非物質文化遺産研究センターを訪問し、中国沿岸漁民の海洋知識と利用状況についての調査を行った。広州は南に海がある綺麗な大都市である。また、古代の百越の地であり、秦始皇が中国を統一して現在の広州に南海郡番禺県を設置した。古代から中国の南海貿易の中心地として発展し、唐代半ばの741年には最初の市舶司<sup>(1)</sup>が設置された。昔から海外と交通するうえで重要な地域であり、海外との交流及び商業が盛んであった。そ

のため、広州の地方誌の中で海外交通や貿易、漁業などの内容が多く記録された。

中山大学は広州大都市の中にある静かな歴史と人文を持つ大学である。今回、指導教授である中山大学非物質文化遺産研究センターの王宵氷教授にご指導をいただき、王先生から漁村研究についての論文を紹介していただき、図書館と資料室の利用法を教えてください資料調査に向かった。中山大学図書館で「中国方志庫」というデータベースを利用し、この中で清時代の漁船、漁場、漁労種類などを記録された資料を発見した。だが、非物